

## 調査報告

# 第12次ルクソール西岸 アル＝コーカ地区調査概報

近藤 二郎\*<sup>1</sup>・吉村 作治\*<sup>2</sup>・柏木 裕之\*<sup>3</sup>  
河合 望\*<sup>4</sup>・高橋 寿光\*<sup>3</sup>・福田 莉紗\*<sup>5</sup>

## Preliminary Report on the Twelfth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition

Jiro Kondo\*<sup>1</sup>, Sakuji Yoshimura\*<sup>2</sup>, Hiroyuki Kashiwagi\*<sup>3</sup>,  
Nozomu Kawai\*<sup>4</sup>, Kazumitsu Takahashi\*<sup>3</sup> and Risa Fukuda\*<sup>5</sup>

### Abstract

The team from the Institute of Egyptology at Waseda University has carried out clearance, conservation, and documentation at the tomb of Userhat (TT47), Overseer of King's Private Apartment under Amenhotep III, and other tombs in the vicinity at al-Khokha area in the Theban Necropolis since 2007. Although the tomb of Userhat (TT47) is one of the most important private tombs from Amenhotep III's reign, no comprehensive scientific research has been undertaken because its exact location had become unknown even after Howard Carter wrote its short report in 1903.

In the previous seasons, we uncovered the entrance of the tomb of Userhat (TT47), which has the lintel and doorjambs on both sides. They were decorated with incised hieroglyphic inscriptions and the figures of the tomb owner, Userhat. We have also located the subterranean structure of the tomb through the clearance of the debris in a hole where the ceiling of the chamber has collapsed in the past. At the south side of the western rear wall of the transverse hall, we found a relief decoration which depicts Amenhotep III and Queen Tiye seated under a canopy. At the inner chamber, we found a dyad, probably of Userhat and his wife, carved in the south wall of the chamber. We found an unfinished tomb (KHT01) to the south of the forecourt of the tomb of Userhat (TT47) in the course of our clearance. The entrance of KHT01 is hewn on the southern wall of the forecourt of the tomb of Userhat (TT47). It was found out that the tomb KHT01 leads to another tomb, the tomb of Khonsuemheb (KHT02) who has the title of the Chief of the Workshop and Chief Brewer of the Mut temple. We also discovered the tomb of Khonsu (KHT03), who has the title of the Royal Scribe, during our clearance at the east of the forecourt of the tomb of Userhat (TT47).

In this season, we conducted our clearance at the area above the inner chamber of the tomb of Userhat (TT47), which is still covered by huge heap of debris, for the future conservation work inside the tomb. The archaeological engineering research on the tomb of Userhat (TT47) was carried out for future engineering works. The conservation

\* 1 早稲田大学文学学術院教授 / 早稲田大学エジプト学研究所所長

\* 2 東日本国際大学学長 / 早稲田大学名誉教授

\* 3 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授

\* 4 金沢大学新学術創成研究機構教授

\* 5 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

\* 1 *Professor, Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University / Director, Institute of Egyptology, Waseda University*

\* 2 *President, Higashinippon International University / Professor Emeritus, Waseda University*

\* 3 *Visiting Professor, Institute of Egyptian Archaeology, Higashinippon International University*

\* 4 *Professor, Institute for Frontier Science Initiative, Kanazawa University*

\* 5 *Doctoral student, Department of Archaeology, Waseda University*

work and archaeological clearance were carried out in the tomb of Khonsuemheb (KHT02) for its preservation. The anthropological study of the human skeletal and mummified remains was also conducted.

## 1. はじめに

早稲田大学古代エジプト調査隊は、1972年1月にエジプト・アラブ共和国、ルクソール西岸のマルカタ南遺跡で発掘調査を開始し、1974年1月にコム・アル=サマク（魚の丘）において、新王国時代第18王朝アメンヘテプ3世時代の彩色階段を発見した<sup>1)</sup>。この発見を受けて、アメンヘテプ3世時代をその後の主な研究対象とし、アメンヘテプ3世の王宮であるマルカタ王宮、アメンヘテプ3世時代のルクソール西岸の岩窟墓や王家の谷・アメンヘテプ3世王墓の調査など、当該時代の研究を進めてきた<sup>2)</sup>。

こうしたアメンヘテプ3世時代の研究の一環として、早稲田大学エジプト学研究所は、2007年度から新たにルクソール西岸、アル=コーカ地区に位置するアメンヘテプ3世時代の岩窟墓、ウセルハト墓（TT47）を対象に調査を開始した（図1, 2）。調査の対象としたウセルハト墓（TT47）は、アメンヘテプ3世の後宮（ハーレム）の長官などを務めたウセルハトという人物の墓で、アメンヘテプ3世時代の高官墓に特徴的な、良質なレリーフ装飾と列柱を備えた大型岩窟墓の1つとして極めて重要である。本調査では、墓の構造、装飾、被葬者の称号、家族関係などを明らかにするとともに、これらの資料をもとに研究を実施し、同時代の大型岩窟墓

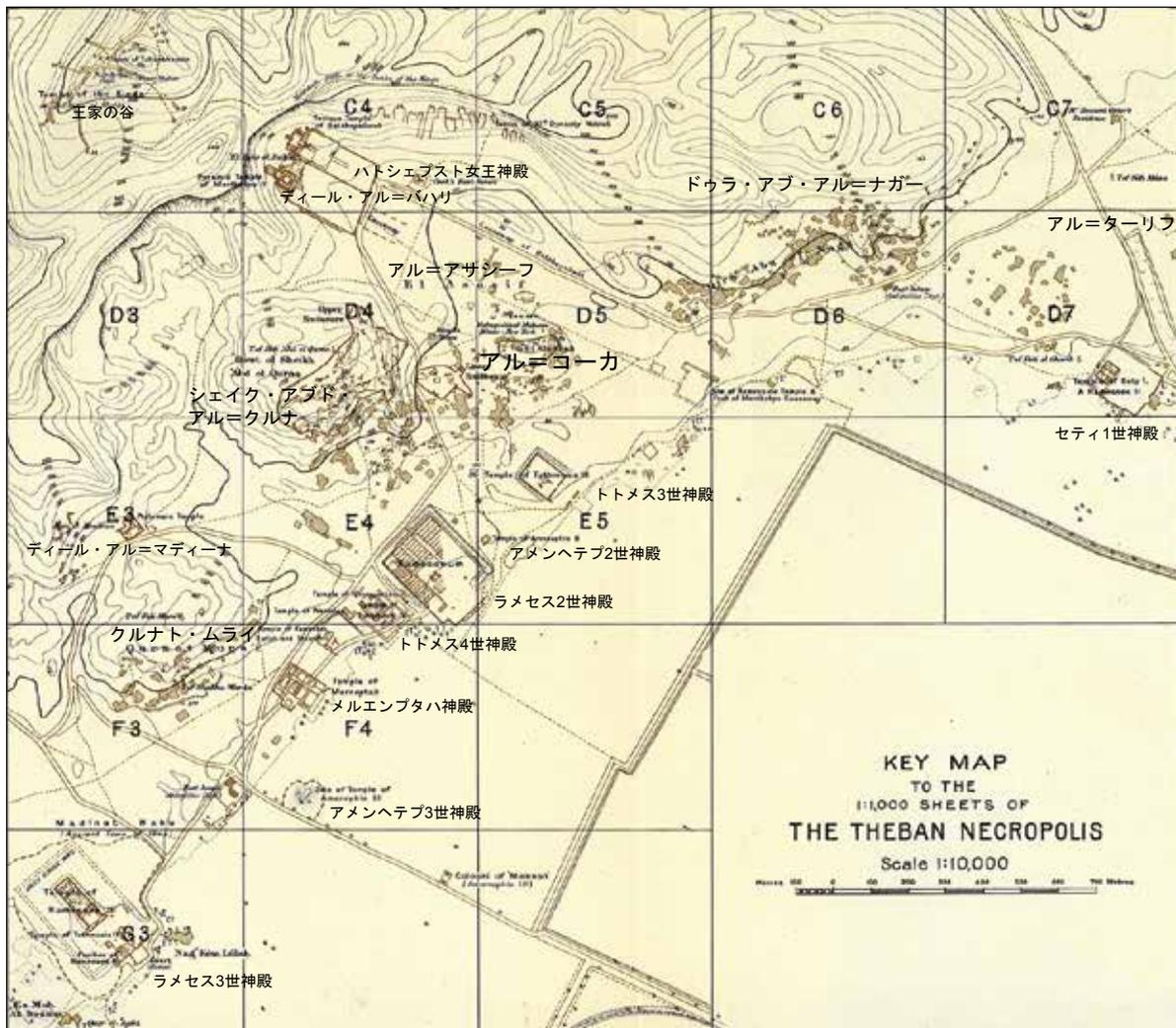


図1 ルクソール西岸地図 (Engelbach 1924: pl.II を一部改変、スケール 1:20,000)

Fig.1 Map of Theban Necropolis

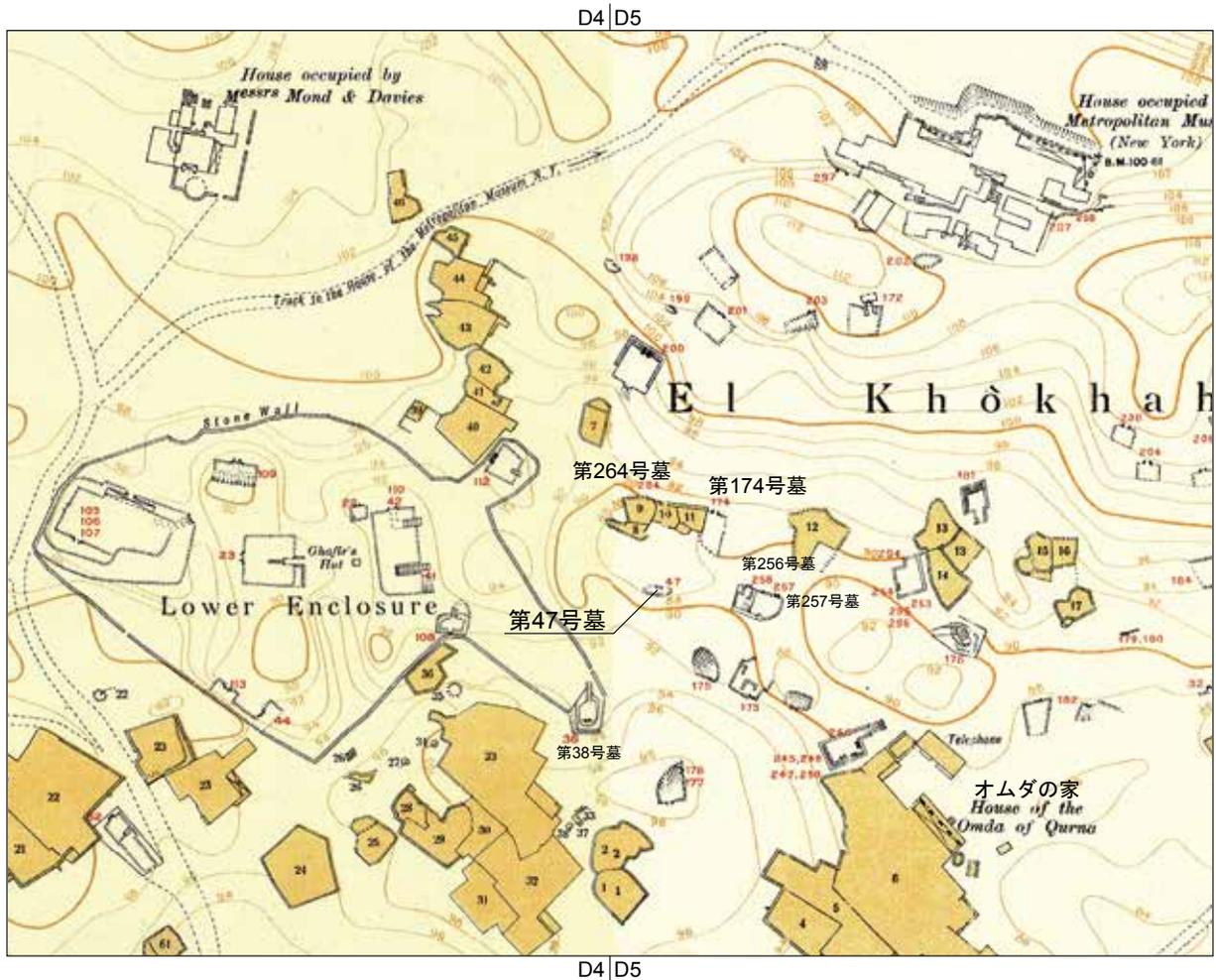


図2 アル=コーカ地区地図 (“Map of the Theban Necropolis” of Survey of Egypt from 1922 to 1924 を一部改変、スケール 1:2,000)  
Fig.2 Map of al-Khokha area

の特質と発展を解明することを調査の目的とした<sup>3)</sup>。ウセルハト墓 (TT47) は H.A. ラインド (Rhind) や H. カーター (Carter) などの報告により、19 世紀からその存在が広く知られていたものの<sup>4)</sup>、総合的な調査は行われておらず、2007 年度の調査前の時点で墓は厚い堆積に覆われ、正確な位置すら不明となっていた。こうした状況を受けて早稲田大学エジプト学研究所は、2007 年 12 月にアル=コーカ地区においてウセルハト墓 (TT47) の再発見・再調査を目的とした発掘調査を開始し、その後、調査を継続している。

これまでの調査により、ウセルハト墓 (TT47) を再発見するとともに、これまでカーターなどによって報告されていなかった墓の詳細を明らかにすることができた (近藤他 2011, 2012, 2013, 2014)。入口脇柱には、南北それぞれ垂直方向に 5 行の碑文が刻まれており、下部には被葬者であるウセルハトが座った姿で描かれていた。また、脇柱の碑文から、これまで知られていたウセルハトの称号 *imy-r ipt nswt* 「王の後宮の長官」に加え、*imy-r htmtyw nw pr-nswt* 「(王宮の) 印綬官の監督官」という別の称号が明らかになった。更に、ケルエフ墓 (TT192) のように、ウセルハトの名前や図像の顔などが意図的に削られた痕跡も確認された (近藤他 2011)。また、ウセルハト墓 (TT47) の前室西壁の南側では、墓主のウセルハト、アメンヘテプ 3 世と王妃ティイが描かれた浅浮き彫りのレリーフ装飾と碑文を発見した。現在、ウセルハト墓 (TT47) 由来の王妃ティイのレリーフがブリュッセル王立美術歴史博物館に収蔵されているが (E.2157)、本来装飾されていた場所が明らかとなった。更に、奥室の南壁、北壁には壁龕の内部にウセルハトと妻の彫像が発見された (Kondo and Kawai 2017;

近藤他 2013)。

第7次調査では、ウセルハト墓 (TT47) の前庭部の南側から、新たに2基の岩窟墓、未装飾墓 (KHT01) とコンスウエムヘブ墓 (KHT02) を発見した (Kondo and Kawai 2017; 近藤他 2015)。第10次調査では、ウセルハト墓 (TT47) の前庭部の東側から、新たに1基の岩窟墓、コンスウ墓 (KHT03) を発見した (近藤他 2018)。第11次調査では、今後のウセルハト墓 (TT47) 内部の発掘調査、保存修復作業に向けて、墓の上の土砂の荷重を減らすことを目的とし、ウセルハト墓 (TT47) 上部の発掘調査を実施した。また、コンスウエムヘブ墓 (KHT02) では、内部の発掘調査、保存修復作業、岩盤補強作業を実施した (近藤他 2019)。

第12次調査では、引き続きウセルハト墓 (TT47) 上部の土砂の荷重を減らすことを目的とし、発掘調査を実施した。また、保存修復作業に備え、コンスウエムヘブ墓 (KHT02) 前室の発掘調査も実施した。その他、それぞれの専門家によって、ウセルハト墓 (TT47) の今後の補強作業に向けた予備調査、コンスウエムヘブ墓 (KHT02) 前室の保存修復作業、これまでに発見されたミイラ、人骨の人類学的調査などが実施された<sup>5)</sup>。

本稿では、こうした経緯と調査目的のもと、2018年度にルクソール西岸アル=コーカ地区のウセルハト墓 (TT47) およびその周辺において実施した第12次調査について報告を行う<sup>6)</sup>。

## 2. ウセルハト墓 (TT47) およびコンスウエムヘブ墓 (KHT02) の発掘調査

今期調査では、第11次調査に引き続き、今後のウセルハト墓 (TT47) の内部の発掘調査、保存修復作業に備え、墓の上部に堆積する土砂を発掘し、墓内部にかかる荷重を減少させることを目的とした。今回の発掘では、主にウセルハト墓 (TT47) の奥室の上部に当たる箇所を発掘調査を実施した (図3, 写真1)。今回、発掘調査を行った箇所は、堆積している層の上部にあたり、層位の観察から、近代の盗掘やゴミの廃棄などによって形成された箇所と判断された。ここからは、周辺の墓に由来する木棺片、カルトナージュ棺片、シャブティ、石碑片などが出土した。今期の発掘箇所には、まだ堆積が残っているため、来期も同じ場所で発掘調査を継続する計画である。

更に、同じく第11次調査に引き続き、コンスウエムヘブ墓 (KHT02) の前室の発掘調査も実施した (図3, 写真2)。今期は主に前室南側の発掘調査を実施した。前室内部には、外部から流れ込んだと考えられる石灰岩チップ片、日干レンガ片、ワラ、動物の排泄物などが堆積しており、近代の活動によってこれらが墓の内部に流れ込んできたと推測された。なお、日干レンガの中には、南側に位置するトトメス3世葬祭殿に由来するトトメス3世のカルトウーシュが押印されたレンガも含まれていた。出土遺物は人骨、ミイラ片、木棺片、カルトナージュ片、ファイアンス製ビーズ、アミュレットなどである。これらの遺物は、新王国時代、第3中間期、末期王朝時代、プトレマイオス朝時代に年代づけられ、盗掘や近代の活動の結果、コンスウエムヘブ墓 (KHT02) 内部や周囲の墓などからもたらされたと考えられる。その他、古代に崩落したコンスウエムヘブ墓 (KHT02) の壁画の一部も発見された。これらは今後の保存修復作業によって、適切な位置に戻される計画である。

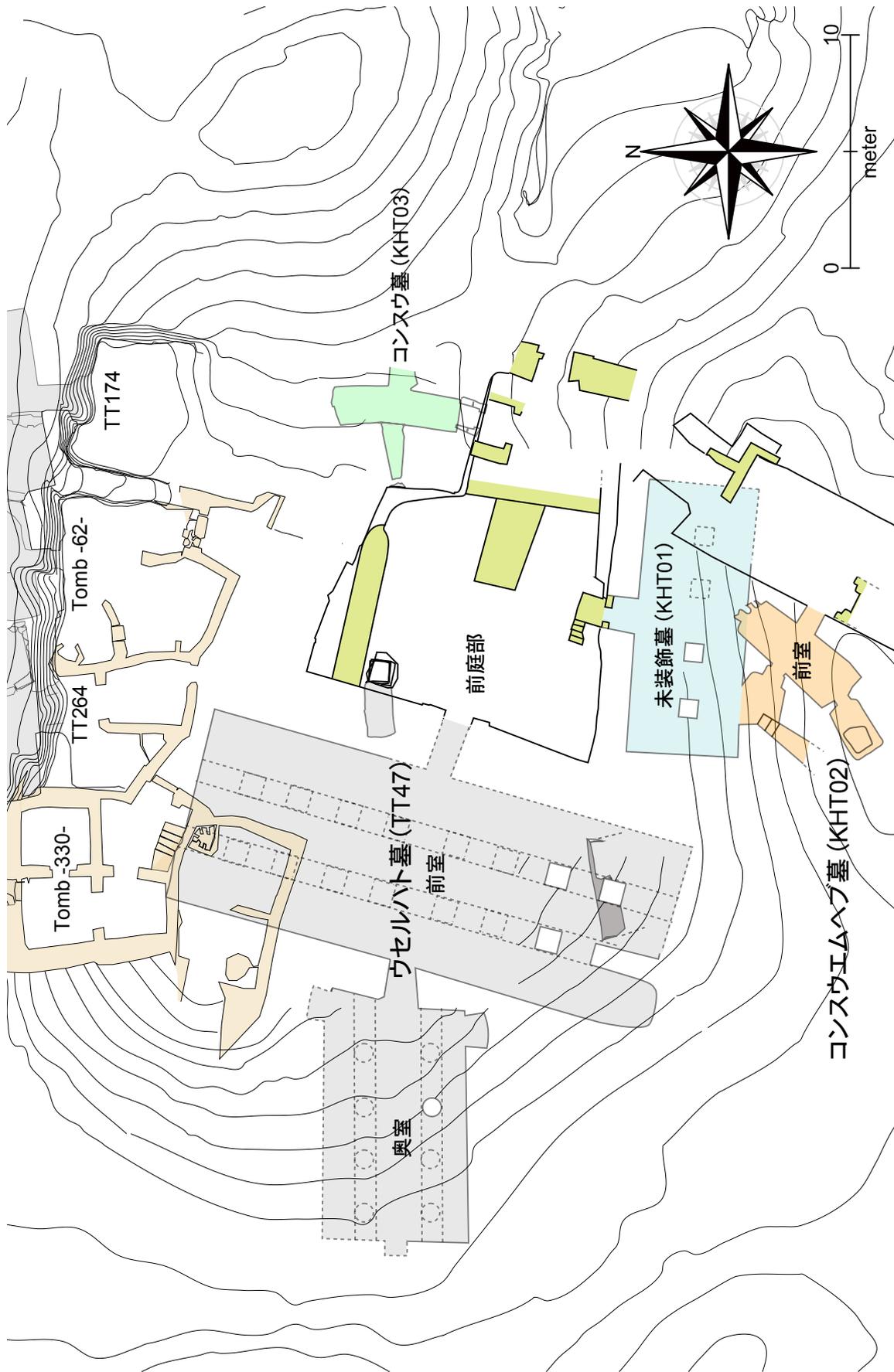


図3 ウセルハト墓 (TT47) およびその周辺地図 (第12次調査終了時)  
 Fig.3 Map of tomb of Userhat and its vicinity



写真1 ウセルハト墓 (TT47) 奥室上部、今期発掘調査終了時 (北東から)  
Pl.1 The area above the inner chamber of the tomb of Userhat (TT47) after clearance in this season, looking from northeast



写真2 コンスウエムヘブ墓 (KHT02) 前室南側、発掘調査完了時 (北西から)  
Pl.2 The southern part of the transverse hall in the tomb of Khonsuemheb (KHT02) after clearance in this season, looking from northwest

### 3. 出土遺物

#### (1) 木棺片

今期調査では、コンスウエムヘブ墓 (KHT02) の前室の南側の発掘調査によって、多くの木棺片が発見された。中でも、黄色の背景の木棺片2点が注目される。一つは人型棺のつま先の部分であり、黄色の背景に黒色の文字が書かれている (図 4.1, 写真 3)。もう一つは、人型棺の底の部分であり、棺の外部に、黄色の背景、チェトと両側にウアス笏が描かれている。棺の内部は、黒で装飾されている (図 4.2)。これらの特徴から、木棺は第 19 王朝から第 20 王朝に年代づけられる (Taylor 2001: 169-170)。

#### (2) 木製胸飾り

同じく、コンスウエムヘブ墓 (KHT02) の前室の南側の発掘調査によって、木製の胸飾りが発見された (図 4.3)。第 21 王朝から第 22 王朝に年代づけられる (Feuchte 1971: 61)。

#### (3) カルトナージュ棺片

カルトナージュ棺の顔の部分が発見されている (図 4.4, 写真 4)。同じアル=コーカ地区の TT-400- から出土した類例から (Schreiber et al. 2013: 192, fig.4.a)、おそらくプトレマイオス朝時代に年代づけられる。

#### (4) 葬送コーン

ウセルハト墓 (TT47) の奥室の上部の発掘調査によって、いくつかの葬送コーンが発見されている。今期調査で、最も多いのは、ウセルハト墓 (TT47) の被葬者であるウセルハトの葬送コーンであり、12 点が発見されている (Davies and Macadam 1957: #406)。そのうちの一つは、直方体であり、文字が押印されている先端には赤いスリップが施されている (図 5.1, 写真 5)。その他、ネブアメンの葬送コーンなどが発見されている (Davies and Macadam 1957: #553)。

#### (5) 石灰岩製彩色レリーフ片

ウセルハト墓 (TT47) の奥室の上部から、石灰岩製の彩色レリーフ片が発見された (図 5.2-4, 写真 6)。青のヒエログリフに赤の線が見られる。類例から、おそらく第 18 王朝後期に年代づけられる<sup>7)</sup>。図 5.2 は、上段が *n* のサイン、下段が */// r gr r w<sup>c</sup>t///*、図 5.3 は、右から *///i3w n///*, [*t3*] *n nb nhh*、図 5.4 は左から *///hr 3ht[y]///*, *///dt in///* である。断片的であるが、神への祈祷文の一部と考えられる。

#### (6) パピルス片

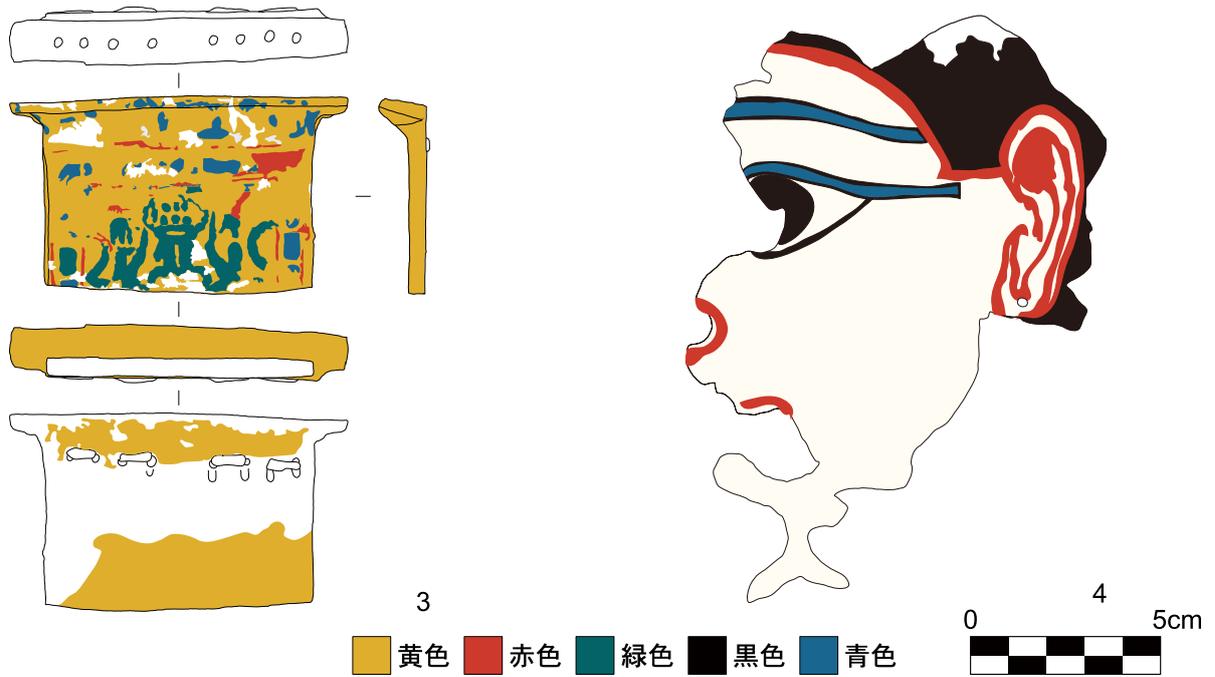
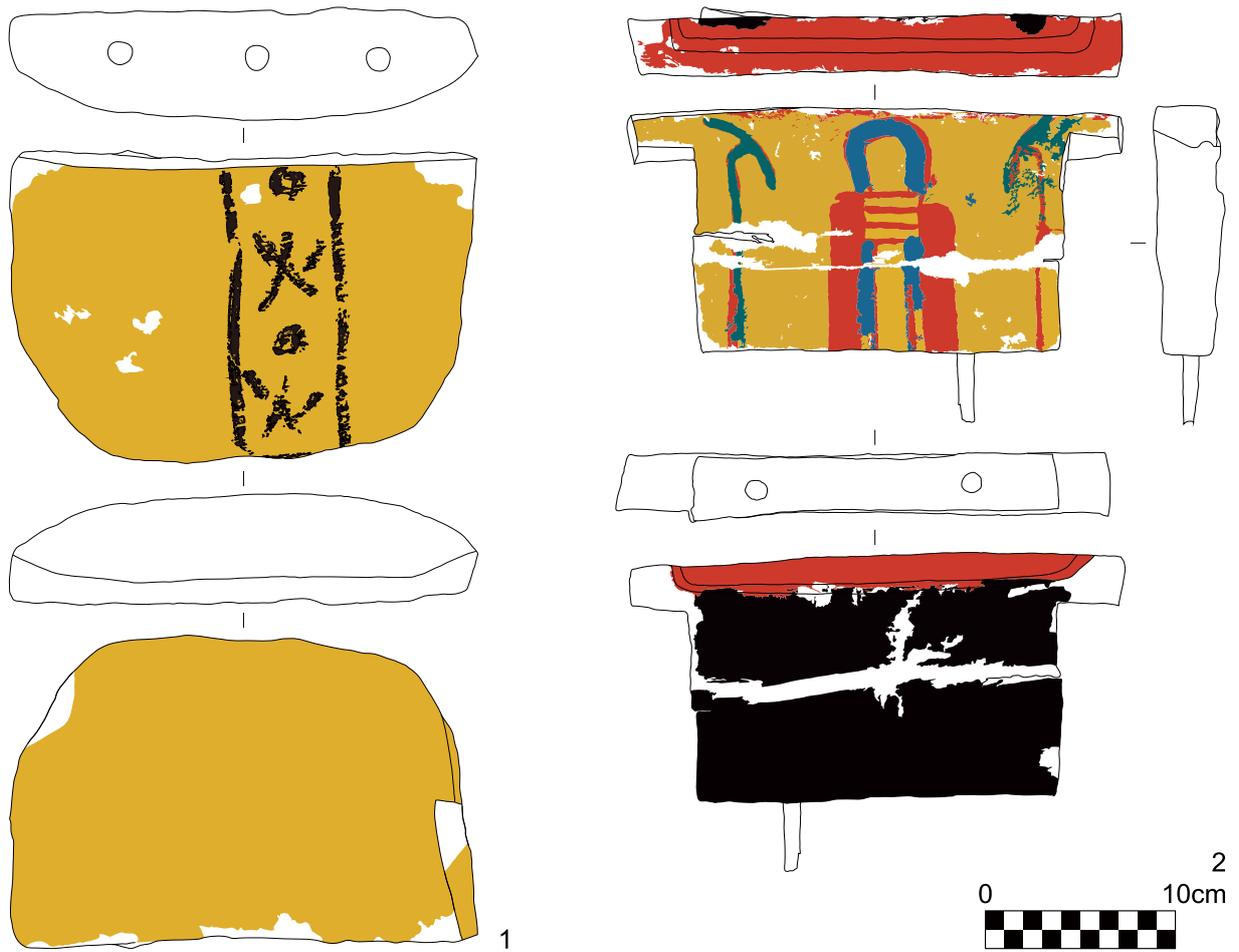
今回発見されたパピルス片は、カルトナージュ棺に再利用されたものである。デモティックが書かれている (写真 7)。

#### (7) トトメス 3 世のカルトウーシュ付き日干レンガ

日干レンガの大きさは、38cm×16.5cm×12.5cm である。表面には、トトメス 3 世の即位名である「*Mn-hpr-r<sup>c</sup>*」が押印されている (写真 8)。南側に位置するトトメス 3 世の葬祭殿に由来すると考えられる。

#### (8) 壁画片

コンスウエムヘブ墓 (KHT02) の前室の南側からいくつかの壁画片が発見された。そのうちの 2 つは、前室



黄色 赤色 緑色 黒色 青色

図4 主要出土遺物 (1)  
Fig.4 Major finds (1)

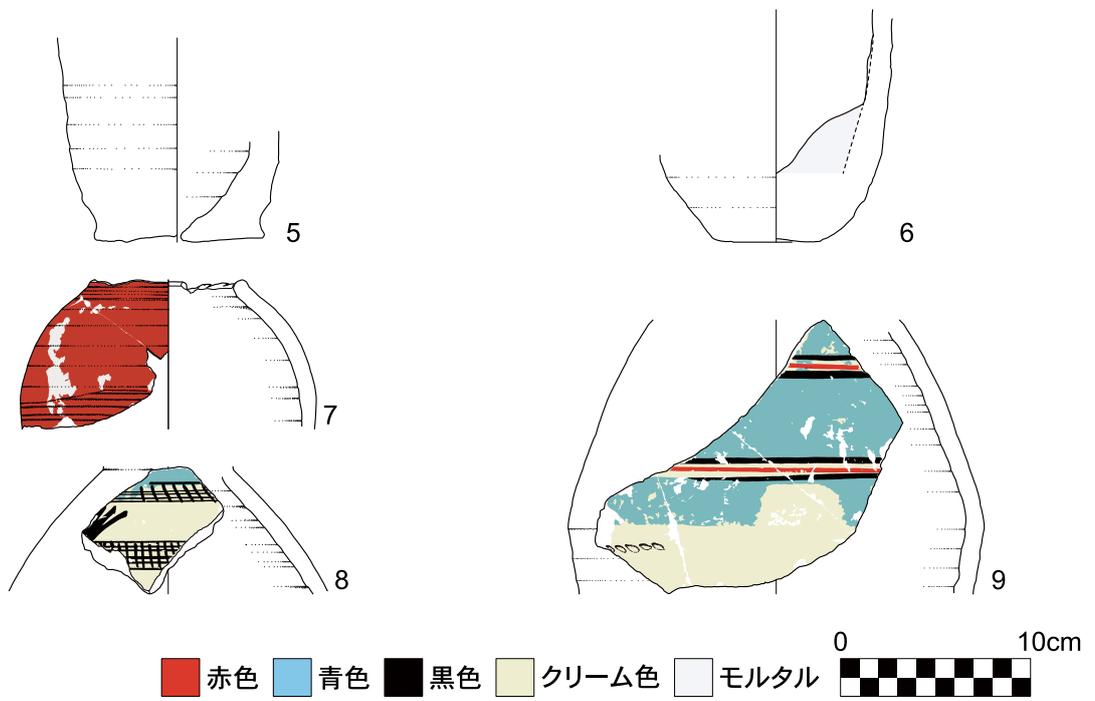
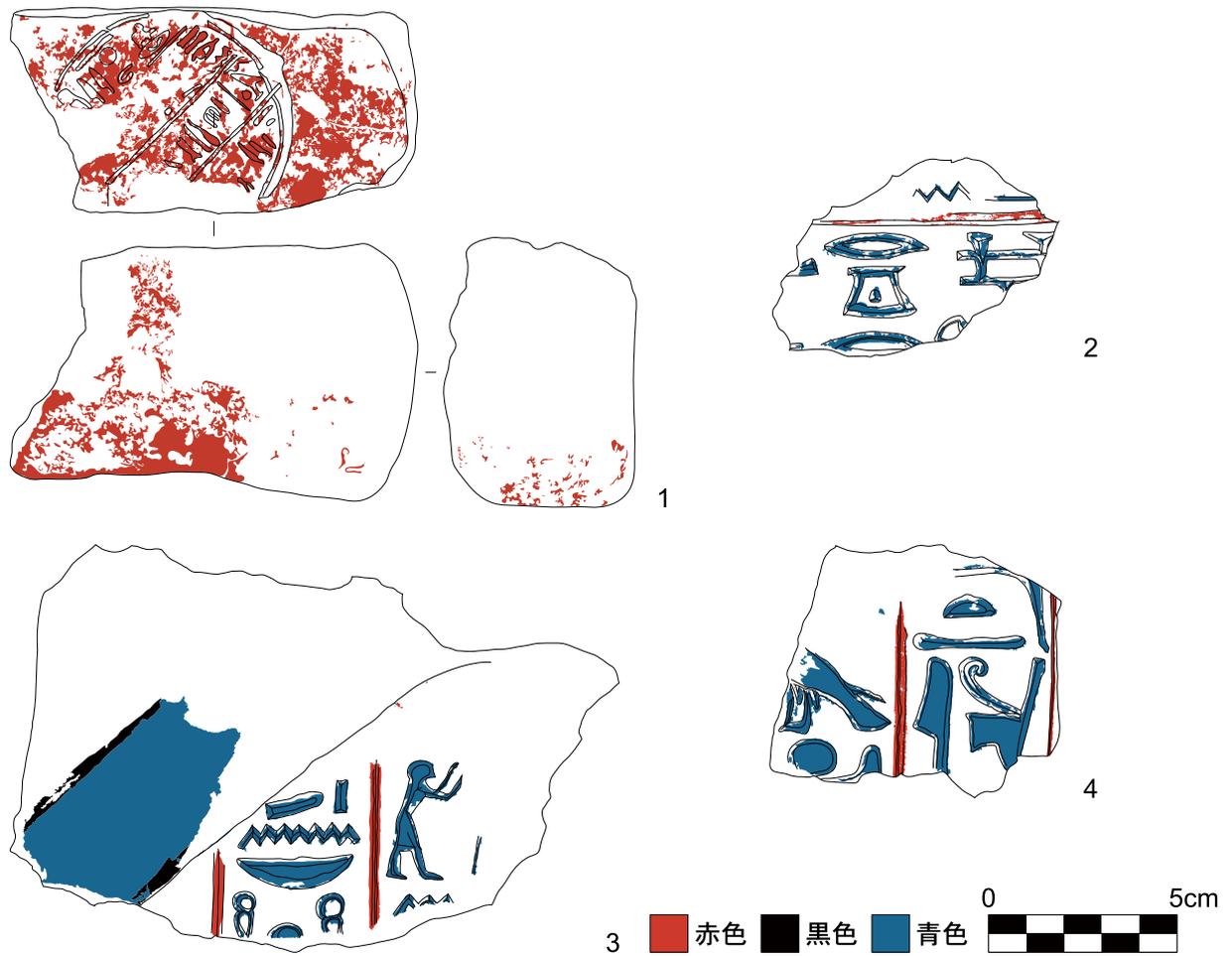


図5 主要出土遺物 (2)  
Fig.5 Major finds (2)



写真3 木棺片  
Pl.3 Fragment of wooden coffin



写真4 カルトナーージュ片  
Pl.4 Fragment of cartonnage coffin



写真5 葬送コーン  
Pl.5 Mural painting fragment



写真6 石灰岩製彩色レリーフ片  
Pl.6 Fragment of painted limestone reliefs



写真7 パピルス片  
Pl.7 Papyrus fragment with Demotic text



写真8 トトメス3世のカルトゥーシュ付き日干レンガ  
Pl.8 Mud-brick with the stamp of the cartouche of Thutmose III

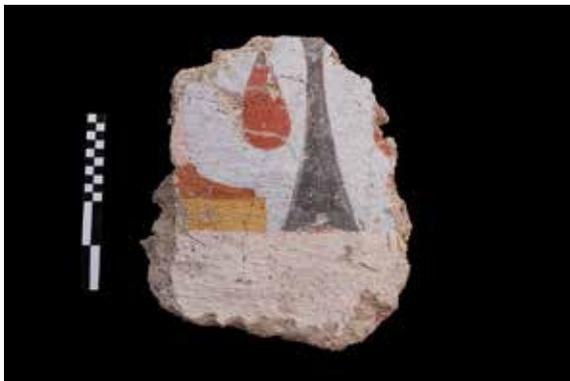


写真9 壁画片  
Pl.9 Mural painting fragment



写真10 壁画片  
Pl.10 Mural painting fragment

東側の壁画であると考えられる。一つにはおそらくコンスウエムヘブを示す座った男性と供物（写真9）、そして、もう一つにはおそらく被葬者の妻であるムウトエムヘブを示す座った女性が描かれている（写真10）。

#### (9) 土器<sup>8)</sup>

今期調査では、ウセルハト墓（TT47）の奥室の上部から特徴的な土器が出土している。それらは、ビール壺（図5.5, 6）、赤色磨研土器（図5.7）、青色彩文土器（図5.8, 9）である。ビール壺には、下部に穴が空くもの（図5.5）やプラスター容器として再利用されたものなどがある（図5.6）。また、赤色磨研土器は、第18王朝後期に特徴的な長頸の壺型土器であると考えられる<sup>9)</sup>。頸の付け根が意図的に削られていることから、後世に再利用されたと考えられる。青色彩文土器は類例から、第19王朝から第20王朝に年代づけられる（Aston 1998: no.1257; Aston 2014: pl.45.394）。

#### 4. まとめ

2018年度の第12次調査では、ウセルハト墓（TT47）奥室上部の発掘調査を行い、今後のウセルハト墓内部の発掘調査、保存修復作業に向けて、墓の上の土砂の加重を減らすことができた。ただし、土砂はまだ残っているため、来期以降、引き続きこの箇所における発掘調査を行う予定である。更に、専門家によるウセルハト墓（TT47）入口の岩盤補強作業のための予備調査も完了した。来期、まずは入口から岩盤補強作業を行う予定である。コンスウエムヘブ墓（KHT02）では、前室の南側の発掘調査を完了するとともに、保存修復作業を継続し、一定の成果を得た。

以上が第12次調査の成果の概要である。来期以降も発掘調査、保存修復作業、岩盤補強作業を継続し、ウセルハト墓（第47号墓）、コンスウエムヘブ墓（KHT02）を中心として、研究を進めていきたい。

#### 謝辞

エジプト現地調査では、エジプト・アラブ共和国考古大臣カリード・アル＝アナニー閣下、考古最高評議会事務総長ムスタファ・ワジーリー博士、古代エジプト部部長アイマン・アシュマウィ博士、外国調査隊管轄事務局局長ナシュア・ガーベル博士、上エジプト局長ムハンマド・ヤヒヤ氏、ルクソール総局長カザフィ・アブデル・ラヒーム、ルクソール西岸局長ファタフィ・ヤシン氏、ルクソール西岸クルナ査察局長バハ・ガビル氏、ルクソール西岸中部地区長エズ・アル＝ディン・カマル・ヌビ氏、ルクソール西岸中部地区主任査察官アハメド・バグダディ氏、査察官アブデル＝ガニィ氏、サード・ケナウィ氏をはじめとする方々に多大なご協力を頂いた（肩書きは調査当時のもの）。

また、図版などの作成には早稲田大学エジプト学研究所のアブデルアール・アハメド・マハムード・ムハンマド、安藤 謙、伊藤結華、進藤瑞生の協力を得た。ここに記して感謝の意を表す。

なお、本調査は日本学術振興会科学研究費・基盤研究（A）「エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究」（研究代表者：近藤二郎）の助成を受けて実施された。

#### 註

- 1) マルカタ南遺跡のコム・アル＝サマク（魚の丘）における調査に関しては主に以下を参照（古代エジプト調査委員会編 1983）。
- 2) マルカタ王宮の調査は主に以下を参照（早稲田大学古代エジプト建築調査隊編 1993）。ルクソール西岸岩窟墓の一連の調査は主に以下を参照（早稲田大学エジプト学研究所編 2002, 2003, 2007）。王家の谷・アメンヘテプ3世王墓における調査は主に以下を参照（Kondo 1992, 1995; Yoshimura and Kondo 1995; Yoshimura and Kondo (eds.) 2004; Yoshimura et al. 2005; 吉村 1993; 吉村、近藤 1994, 2000; 河合他 2001; 吉村他 2005, 2013; アメンヘテプ III 世王墓報告書刊行委員会

編 2008, 2011)。

- 3) ウセルハト墓 (TT47) の研究史、研究上の問題点、アメンヘテプ 3 世時代の大型岩窟墓の問題について詳しくは以下を参照 (近藤 1994)。その他、アメンヘテプ 3 世時代の大型岩窟墓については D. アイクナー (Eigner) の論考を参照 (Eigner 1983)。
- 4) これまでの報告としては、ラインドによるウセルハトの葬送コーンの報告 (Rhind 1862: 137)、ハワード・カーターによるウセルハト墓 (TT47) の構造に関する記述やウセルハトの葬送コーン、王妃ティイのレリーフ写真などの報告 (Carter 1903: 177-178, Pl.II)、A.E.P. ウェイゴール (Weigall) の記述 (Weigall 1908: 125) などが挙げられる。また、ベルギーのブリュッセル王立美術史博物館にはウセルハト墓 (TT47) 由来の王妃ティイのレリーフが収蔵されている (van de Walle et al. 1980: 18-20, Figs.3, 4)。
- 5) これらの調査成果に関しては、今後別稿にて、各専門家より報告される予定である。
- 6) 調査は 2018 年 12 月 20 日から 2019 年 1 月 17 日、2019 年 3 月 11 日から 3 月 14 日まで実施された。調査の参加者は以下の通りである。考古班：近藤二郎、河合 望、高橋寿光、福田莉紗、アブデルアール・アハメド・マハムード・ムハンマド、安藤 謙、伊藤結華、進藤瑞生、建築班：柏木裕之、保存修復班：前川佳文、ダニエラ・マリア・マーフィ、岩盤工学班：ホセ・イグナシオ・フォカデル・ウトリッラ、人類班：馬場悠男、坂上和弘、渉外：吉村龍人、ムハンマド・アシュリー。
- 7) 類似した青のヒエログリフと赤の線のレリーフは第 18 王朝後期によく見られるもので (van Dijk 2010: 322)、類例は、センフェル墓 (TT99) などから出土している (Strudwick 2016: pl.14B)。
- 8) 土器の胎土に関しては 10 倍のルーベによる観察を行い、エジプトの胎土分類システムのウィーン・システムを参照し、記述を行った (Nordström and Bourriau 1993; Bourriau et al. 2000: 130-132)。胎土の色調に関しては、マンセルのカラーチャートを用いて記述を行った。土器の器形分類に関しては、最大径と高さの関係などの数値に基づいた器形分類を参考に、エジプトの土器研究で一般的に用いられている英語名称を日本語に訳し、名称を付した (Aston 1998: 41-51)。
- 9) 類例は、マルカタ (Hope 1989: fig.3.d) やアマルナ (Rose 2007: nos.467-470) に見られ、第 18 王朝後期に特徴的である。

#### 参考文献

Aston, D.A.

1998 *Die Keramik des Grabungsplatzes Q I. Teil I. Corpus of Fabrics, Wares and Shapes*, Mainz am Rhein.

2014 *Pottery Recovered Near the Tombs of Seti I KV 17 and Siptah KV 47 in the Valley of the Kings*, Basel.

Bourriau, J., Nicholson, P.T and Rose, P.

2000 "Pottery", in Nicholson, P.T. and Shaw, I. (eds.), *Ancient Egyptian Materials and Technology*, Cambridge, pp.121-147.

Carter, H.

1903 "Report of work done in upper Egypt (1902-1903)", *Annales du Service des Antiquités de l'Égypte* 4, pp.171-180.

Davies, N. de G. and Macadam, M.F.L.

1957 *A Corpus of Inscribed Egyptian Funerary Cones*, Oxford.

van Dijk, J.

2010 "A Cat, A Nurse, And A Standard-Bearer: Notes On Three Late Eighteenth Dynasty Statues", in D'Auria, S. (ed.), *Offerings to the Discerning Eye: An Egyptological Medley in Honor of Jack A. Josephson*, Leiden and Boston, pp.321-332.

Eigner, D.

1983 "Das Thebanische Grab des Amenhotep, Wesir von Unterägypten: Die Architektur", *Mitteilungen der Deutschen Archäologischen Instituts Abteilung Kairo* 39, pp39-50.

Feuchte, E.

1971 *Pektorale Nichtköniglicher Personen*, Wiesbaden.

Hope, C.

1989 *Pottery of the Egyptian New Kingdom: Three Studies*, Burwood.

Kondo, J.

1992 "A Preliminary Report on the Re-clearance of the Tomb of Amenophis III", in Reeves, C.N. (ed.), *After Tutankhamun: Research and Excavation in the Royal Necropolis at Thebes*, London and New York, pp.41-54.

1995 "The Re-clearance of Tombs WV 22 and WV A in the Western Valley of the Kings", in Wilkinson, R.H. (ed.), *Valley of the Sun Kings: New Explorations in the tombs of Pharaohs*, Tucson, pp.25-33.

Kondo, J. and Kawai, N.

2017 “Discovered, lost, rediscovered: Userhat and Khonsuemheb”, *Egyptian Archaeology* 50, pp.22–26.

Nordström, H.-Å and Bourriau, J.

1993 “Ceramic Technology: Clays and Fabrics”, in Arnold, D. and Bourriau, J. (eds.), *An Introduction to Ancient Egyptian Pottery*, Mainz am Rhein, pp.143–190.

Rhind, A.H.

1862 *Thebes: Its Tombs and Their Tenants, Ancient and Present: A Record of Excavations in the Necropolis*, London.

Rose, P.

2007 *The Eighteenth Dynasty Pottery Corpus from Amarna*, London.

Schreiber, G., Vasáros, Z. and Almásy A.

2013 “Ptolemaic and Roman Burials from Theban Tomb -400-”, *Mitteilungen des Deutschen Archäologischen Instituts Abteilung Kairo* 69, pp.187–225.

Strudwick, N.

2016 *The tomb of pharaoh's chancellor Senneferi at Thebes (TT99), Volume I: The New Kingdom*, Oxford.

Taylor, J.H.

2001 “Patterns of Colouring on Ancient Egyptian Coffins from the New Kingdom to the Twenty-Sixth Dynasty: an Overview”, in Davies, W.V. (ed.), *Colour and Painting in Ancient Egypt*, London, pp.164–181.

van de Walle, B., Limme, L. and De Meulenaere, H.

1980 *La collection égyptienne, Les étapes marquantes de son développement*, Bruxelles.

Weigall, A.E.P.

1908 “Report on the Tombs of Shékh abd' el Gürneh and el Assasif”, *Annales du Service des Antiquités de l'Égypte* 9, pp.118–136.

Yoshimura, S., Capriotti, G., Kawai, N. and Nishisaka, A.

2005 “A Preliminary Report on the Conservation Project of the Wall Paintings in the Royal Tomb of Amenophis III (KV 22) in the Western Valley of the Kings: 2001-2004 Seasons”, *MEMNONIA* XV, pp.203–212.

Yoshimura, S. and Kondo, J.

1995 “Excavation at the tomb of Amenophis III”, *Egyptian Archaeology* 7, pp.17–18.

Yoshimura, S. and Kondo, J. (eds.)

2004 *Conservation of the Wall Paintings in the Royal Tomb of Amenophis III -First and Second Phases Report-*, Tokyo.

アメンヘテブ III 世王墓報告書刊行委員会編

2008 『エジプト王家の谷・西谷学術調査報告書 [I] アメンヘテブ III 世王墓 (KV22) を中心として』、中央公論美術出版。

2011 『エジプト王家の谷・西谷学術調査報告書 [II] KVA とアメンヘテブ III 世王墓 (KV22) に隣接する地域』、中央公論美術出版。

河合 望、吉村作治、近藤二郎、ジョルジョ・カプリオットィ

2001 「アメンヘテブ III 世王墓保存修復プロジェクト予備調査概報」、『エジプト学研究』第9号、早稲田大学エジプト学会、pp.39–45.

古代エジプト調査委員会編

1983 『マルカタ南 [I] 一魚の丘<考古編・建築編>』、早稲田大学出版部。

近藤二郎

1994 「テーベ私人墓第47号」、『エジプト学研究』第2号、早稲田大学エジプト学会、pp.50–60.

近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、西坂朗子、高橋寿光

2009 「第1次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第15号、早稲田大学エジプト学会、pp.39–70.

2010 「第2次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第16号、早稲田大学エジプト学会、pp.47–77.

2011 「第3次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第17号、早稲田大学エジプト学会、pp.45–63.

2012 「第4次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第18号、早稲田大学エジプト学会、pp.5–20.

- 近藤二郎、吉村作治、柏木裕之、河合 望、高橋寿光  
 2013 「第5次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第19号、早稲田大学エジプト学会、pp.107-120.  
 2014 「第6次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第20号、早稲田大学エジプト学会、pp.43-58.
- 近藤二郎、吉村作治、河合 望、菊地敬夫、柏木裕之、竹野内恵太、福田莉紗  
 2015 「第7次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第21号、早稲田大学エジプト学会、pp.19-44.
- 近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、高橋寿光、竹野内恵太、福田莉紗  
 2016 「第8次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第22号、日本エジプト学会、pp.113-148.
- 近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、高橋寿光、福田莉紗  
 2017 「第9次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第23号、日本エジプト学会、pp.43-65.
- 近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、高橋寿光、福田莉紗、米山由夏  
 2018 「第10次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第24号、日本エジプト学会、pp.11-35.
- 近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、高橋寿光、米山由夏  
 2019 「第11次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第25号、日本エジプト学会、pp.25-43.
- 坂上和弘、馬場悠男  
 2017 「アル=コーカ地区 TT47 出土の人骨およびミイラの人類的調査（第9次調査）」、『エジプト学研究』第23号、日本エジプト学会、pp.99-104.
- 阿部善也、扇谷依李、日高遥香、中井 泉  
 2017 「コンスウエムヘブ墓の壁画に使用された彩色顔料の非破壊化学分析」、『エジプト学研究』第23号、日本エジプト学会、pp.66-86.
- 前川佳文  
 2017 「コンスウエムヘブ墓壁画の保存修復に向けた事前調査報告」、『エジプト学研究』第23号、日本エジプト学会、pp.87-98.
- 吉村作治  
 1993 「早稲田大学古代エジプト調査隊調査報告（III）」、『オリエント』第36巻第1号、日本オリエント学会、pp.159-177.
- 吉村作治、近藤二郎  
 1994 「アメンヘテプ3世王墓の調査について エジプト・ルクソール西岸、王家の谷西谷調査報告」、『人間科学研究』第7巻第1号、早稲田大学人間科学部、pp.187-199.  
 2000 「王家の谷・西谷調査報告－1992年8月～2000年1月－」、『エジプト学研究』第8号、早稲田大学エジプト学会、pp.57-64.
- 吉村作治、近藤二郎、河合 望、西坂朗子、瀬戸邦弘、高橋寿光、中右恵理子  
 2005 「アメンヘテプ3世王墓保存修復作業概報：2001年3月～2004年3月」、『エジプト学研究』第13号、早稲田大学エジプト学会、pp.5-21.
- 吉村作治、西坂朗子、高橋寿光  
 2013 「第3期アメンヘテプ3世王墓壁画保存修復プロジェクト概報」、『エジプト学研究』第19号、早稲田大学エジプト学会、pp.43-58.
- 早稲田大学エジプト学研究所編  
 2002 『ルクソール西岸岩窟墓〔I〕－第241号墓と周辺遺構－』、早稲田大学エジプト学研究所.  
 2003 『ルクソール西岸岩窟墓〔II〕－第318号墓と隣接する墓－』、株式会社アケト.  
 2007 『ルクソール西岸岩窟墓〔III〕－第333号墓、A.21号墓、A.24号墓、W-4 (Nr.-127-)号墓－』、株式会社アケト.
- 早稲田大学古代エジプト建築調査隊編  
 1993 『マルカタ王宮の研究 マルカタ王宮址発掘調査1985-1988』、中央公論美術出版.

エジプト学研究 第26号

2020年3月31日発行

発行所 / 日本エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.26

Published date: 31 March 2020

Published by The Japan Society of Egyptologist

1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Japan Society of Egyptologist